

平成 29 年 2 月 2 日提出

松阪市議会 議長 西村 友志 様

報告者：沖 和哉

議員・職員のための 議会広報セミナー in 東京

講師：吉村 潔 氏（エディター・広報アナリスト・全国広報コンクール審査委員）

日時：1月24日 火曜日

1部 議会活性化と広報広聴 10：00～12：30

2部 理解と共感を得る広報へ 14：00～17：00

主催：（株）地方議会総合研究所

参加：松阪市議会議員 沖 和哉（所属 青凜会）

添付：当日講義資料

概 要

◆チャプター0 議会広報の現場と課題

(そもそも)

議会広報は、読まれてないわけではない。一定数、読者はいる。

少ないかもしれないという前提で、再検討することも必要。アンケートも効果的。

だとすれば、どんな読者を増やしたいのか。そもそも誰に何を伝えていくのか。

読者ターゲットの設定と、内容の検討が必要。誰であっても興味があるものにしか反応しない。

だからこそ、漫然と議会で決まったことを「お知らせ」しているだけでは伝わらない。

議会目線から住民目線へ。またその先の住民と連携した広報へ。

◆チャプター1 議会広報の新しい流れ

【議会広報の6つのポイント】

- 1 議会の存在感を示す広報へ
- 2 読者（住民）目線からで情報発信
- 3 進んで手にとり読みたくなる工夫を
- 4 定例会の結果報告に終始しない
- 5 住民参加の協働広報を拡充
- 6 多様なメディアを駆使する



(仕掛け)

まずは手にとりたくなる表紙を。でも、表紙のインパクトだけでは飽きられる。

定例会の内容は、見出しや写真を見ればほぼわかるような仕組み。

住民が関心をもつ案件に絞り込んで編集、掲載。読みやすくが大事。

市民と対話する議会広聴を通して、議会広報へ反映させる。

→ 読んでもらうための仕掛けを作らないと、ダメ。

(審議内容)

条例は、条例名ではなく、「何がどう変わるのか」を示すべき。

どういう内容で、何を審議して、どう決まったか。

住民の生活にどのような影響があるのか、そこに住民の関心がある。

(予算・決算)

決算と予算の連続性を意識し、議会の評価や意見を主語にする。

執行部の代理で広報を出しているわけではない。議会として、どうか。

議会が何に注目して何を議論したか。議論の結果、どうなったのか。

執行部にどのような課題を指摘し、どのような意見を伝えたのか。

→ 議会の提言が、今後の予算編成にどう影響するのか(議会改革との連携)

決算広報の情報開示は、表現が難しい。専門用語はわからない。

→ 用語説明だけでなく、どの数値が問題なのか、誰にでもわかりやすい表現や図式化を。

(一般質問・議案賛否)

質問内容や議案審議に関して、内容をコンパクトに圧縮した概要を載せたり、質問項目をまとめた掲載方法を整理する。→ 住民は関心のある内容を読みやすい。

(多様なメディアの活用)

広報誌+デジタルブックからの動画再生。

議会傍聴に來られない住民への発信、広報としての機能。

HP や広報誌に QR コードをのせ、スマホや PC で録画中継が観れる。

スマホアプリ(マチイロ)等で議会広報の無料配信。県・市町など数多くの実績。

◆チャプター2 事例研究

(議会広報の先進事例)

議会報告会の名称を変更(愛称等)し、親しみやすく。チラシも再検討。

議会報告会の周知や実施報告など、Facebook などを通じて発信。

議案や予算審議など、ポイントをしばって発信。

住民の関心のある高い案件や暮らしに直接関わる内容を紹介する。

広報広聴機能の委員会を、常任委員会として設置。→より積極的な活動を。

議員活動や政務活動費の会計報告。→議会の透明性。情報開示。

(広聴)

広聴機能のひとつとして、議会の市政相談。

ヒアリング→報告書→議長報告→議員全体での議論・提言

テーマ別のワークショップ開催



(その他発信)

閉会中の活動をコンパクトにまとめる（視察など）

デジタル広報（別冊、特だし）の導入により、コストをかけずに毎月発行が可能

紙媒体での発行のスケジュールを補完。報告会などの周知やチラシ。

丹波市議会の新しいかたち（たんぱりんぐ）

◆チャプター3 情報の編集力が問われる

(編集)

伝えたいことを全部文字で書き並べても、伝わらない。

テーマ、概要、ポイント、整理、解説を編集する。

内容の羅列はわかりにくい。読みにくい。→読む人の目線に立ってまとめる。

議会としての総括や意見を発信するべき。

1 ページ、1 枚という概念にとらわれ過ぎずに、見開きを活用したレイアウト。

若い世代、子育て世代にどうアプローチするか 18 歳選挙権をどうとらえるか。

例) 高校生へのインタビュー。大学生との意見交換。若者向けの広報（チラシ）

(自治体合併をふりかえり、求められること)

議会だよりのバックナンバーを整理、電子化。

デジタルアーカイブを持つことで、地域の歴史、議会の歴史を保存、共有。

◆チャプター4 表紙・写真のノウハウ

(表紙のデザイン)

原則として、写真やメインイラストを際立たせるために、無駄な色を増やさない

テキストもシンプルな黒色を使用した方が、スッキリする。読みやすい。

シンプルで強いインパクト。引きの絵ではなく、寄った絵が効果的。

人物の際は、1人ひとりの表情がわかるように。

写真のピントや露出（光）で主題となるテーマを強調する。

単純な集合写真では面白みがないため、横向きの全面使用にするなどで工夫が必要。

画像のトリミング（切り出し）を効果的に取り入れる。

（議場・一般質問の際の写真）

議場の臨場感を出すことが必要。

目線確保のためにポージングにより撮ってもいいが、作り込み過ぎないように注意。

議員の後ろに余計なものが写る場合や、印象が弱い構図になる場合、トリミングで迫力を。

テキスト内の説明画像との差を出すために、人物写真は切り抜いた方がスッキリする。

編集時に使い勝手が良いように、2方向以上から撮影する。

◆チャプター5 目を引くレイアウト

（目につくところを重視）

紙面の中で、読者はなにに目を引かれるのかを考える。

訴求力と情報量は反比例する。「目につくところ」タイトル>見出し>本文

（仕上がりイメージをもつ）

本文の情報量に引きずられず、見やすさとインパクトを重視する

（揃える）

レイアウトでそれぞれのパーツバランスを揃えることが原則。

あえて、他のバランスから飛び出させることで、目を引くこともある。

（色は目立たせるために）

あちこちにバラバラの色をいれると、ゴチャゴチャと読みにくい。

見出し、ポイント、大事な部分など、際立たせる部分のみに色を入れるとスッキリと際立つ。

色わけが情報を整理する役割もある。

（見出しを1列に並べない）

見出しや画像の配置を散らした方が、バランスも読みやすさも向上する。

（余白の活用）

行間や罫線と文字組みの間に空白を持った方が、完成度に差が出る。

フォントのポイントが12ptなら、余白は6ptぐらい確保するべき。

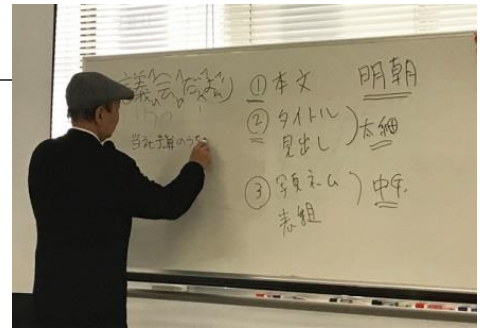
◆チャプター6 テキスト

UD フォントの活用 (ユニバーサルデザイン)

ハネやハライなどを極力少なくした、シンプルなデザイン
使用する書体、文字数は少ない方がスッキリする。

見出しは最大 13 文字、ワンセンテンスは最大 60 字前後を目安に。

フォントの影や余分な加工は、逆に見にくくなる。スマホ等では特に文字が潰れてしまう。



あくまでも「読む人」のために！

ですます調とである調の使い分け。

質問の趣旨がわかる見出しを。(〇〇について、は禁止)

コンプライアンスの観点も確認。(差別用語や断定的表現など)

文章上達のポイント

本文を書く前に、タイトル、リード、見出しを先に考える。

本文は、1 番言いたい「結論」を先に考える。

グラフや図版などから読み取れ内容を、テキストで重複させない。

テンポよく読めるリズムを考える。単調だと読みたくない。(→語尾に変化をつける)

そもそも、議会広報誌は「カタイ」

見出しやタイトルをやわらかく、やさしい表現に。

日常会話のような表現や、方言活用も効果的。



◆広報誌クリニック

千葉県富津市議会

本文内の日付をアイコン化してみては？

写真や画像単体の情報量が少ないと、もったいない。

本文量が長くなると、読みたくなる。リード文をつけて簡略化しては？

討論は議会全体の意見ではないため討論者それぞれの名前は明確にした方がよいのでは？

東京都国立市議会

いろんな情報を盛り込んだことで、ゴチャゴチャと見にくくなってしまっている。

表紙：定例会の概要以外はくわしくわからない。

質疑：タイトルの分量を再検討。本文が多く読んでもらいにくい。小見出しとの連動を考える。

一般質問：詰め込みすぎてキツイ。もう少し余白を。用語説明もあった方が良いのでは？

色合わせ：ページ全体の色使いがフィットしづらい。トーンやニュアンスをあわせてみては？

滋賀県米原市議会

各ページに情報を詰め込み過ぎている。

見出しやフォントサイズのバランスにメリハリが無く、本文が埋もれてしまう可能性がある。

見出しが本文を呼び込む内容になっておらずもったいない。

ですます、である、の語尾の整理があいまいのため、リズムが失われているのでは？

新潟県柏崎市議会

閉会中の活動は充実した内容が盛り込まれており、評価できる。

一方、写真が地味でインパクトに欠けていて、訴求力が弱い。

キャプションが説明不足（目的がわかりにくい）のため、情報としてもったいない。

ページ全体の構図にまとまりがなく、バランスが悪くなってしまふ。

見出しやタイトルに余計な色帯をつけたり装飾をつけたりせず、シンプルで力強く。

栃木県矢板市議会

色使いも統一されており、やわらかく読みやすい。

単純な Q&A だけでなく、小見出しをつけて本文内容へのリードを考えてみては？

本文テキストが単調になりがちなページや、行間の狭いページは調整してはどうか？

陳情や請願に対する賛否について、議論のプロセスを示すことも必要では？（P43）

宮城県利府町議会

町村議会報コンクールでも上位に入る常連。

審議：見出しでわかりやすいが、部署の表記はもっと小さくても良いのでは？

一般質問も余白が広く取ってあるため、読みやすい。

長野県東御市議会

表紙：市民の関心のある案件を見出しとして掲載されており、評価できるが、色が多すぎる。

本編：情報に強弱をつけたレイアウトやバランスが読みやすい。

審議：トピックとしての特出し記述もわかりやすいが、見出しの（～ついて）は不要。

松阪市議会

表紙でキャッチした読者を逃さないような構成を工夫されている。

決算審査でのスライド利用もトピックで抜き出されており、わかりやすい。

委員会表記と比べて見出しが小さく、もったいない。見出しと本文の連動を。

短文化は努力がうかがえるが、行間や文字バランスの統一をした方がさらに良くなる。

表紙も含め、若者への訴求ができていないため、年数回でも市民交流等の特集を組めばどうか。

東京都狛江市議会

今後、単純にモノクロをカラーに変更しても見やすくなるわけではない。

何を載せて、何を伝えたいかを再検討し、企画してほしい。

広報広聴委員会の設置に向けては、重要なこと。常任委員会化をぜひすすめてほしい。

文字数が多すぎるため、できる限り省略していくことが求められる。

質問項目の羅列ではなく、どのような返答、動きがあったのかを載せるべきでは。

◆所 感

松阪市議会だより【みてんか】としてリニューアル発行して1年半経過したが、まだまだ改善の余地も挑戦すべき課題も多分にあると考え、今回のセミナーに参加した。議員本位になっていないか、ごくごく一般の市民の方に読んでもらうための、いや、手に取ってもらうための仕掛けや編集ができていないか、毎号の編集会議を思い起こす。広報広聴委員会としての先進地視察でも、議員の伝えたい内容・分量と市民が読みたくなる内容・分量の差は大きいとのことだったが、やはり、そうなのだ。今回、他市のさまざまな議会報をあらためて読むことができたが、デザインや編集・レイアウトも含め、ヒントをもらったり、逆に反面教師となったり、大いに刺激を受けた1日となった。逆に、松阪市議会の取り組みが先へ進んでいると評価された点も少なくなかったことから、これまでの議会改革が一定の水準をクリアしてきた成果だと思う。

議会や政治は、本来、市民の方の生活に直結するものではあるが、現状、イメージとしては日々の暮らしから遠いところにあるのだろうと思う。おしゃれなフリーペーパーやクーポンの付いた雑誌はもちろん、スーパーや家電量販店、衣料店の広告チラシがそばにあれば、議会報をわざわざ手に取って読んでもらえる可能性は低くなる。それだけ訴求力は弱いという現実を認識し、だからこそ、手に取りたくなる、読んでみたくなる仕掛けを組み込まなければいけない。

みてんかの現状を振り返れば、松阪工業の生徒さんに描いてもらう表紙はひとつの成功例だ。これまで何の接点もなかった若者達へ、アプローチを拡げていける可能性だと考える。改善を考えれば終わりはない。愛されるみてんかを目指し、貪欲に改善に取り組んでいきたい。